

国民医療を守るための国民運動

～総決起大会、県民の健康と医療を考える会総会～

[報告：副会長 今村 孝子]

国民医療を守るための総決起大会

「持続可能な社会保障制度の確立に向けて、適切な財源の確保」を求めるために、医療関係40団体で構成された国民医療推進協議会（会長：横倉義武 日本医師会長）が主催する「国民医療を守るための総決起大会」が令和元年12月6日（金）14時から憲政記念館講堂（東京都）にて開催され、本会から河村会長、林 副会長、中村常任理事とともに参加した。会場には国会議員を含む関係者約1,000人が集結した。

日本医師会の小玉弘之 常任理事による開会宣言の後、横倉義武 会長から「全世代型社会保障検討会議では、後期高齢者の自己負担の引上げ、外来受診時の定額負担の導入、市販品類似薬の自己負担の引上げといった、医療費の抑制策や患者・国民に負担を強いる厳しい論点が俎上に上がっているが、時代に対応できる給付と負担のあり方の視点に立った議論を尽くし、国民不安の解消につなげていくことが重要である。確固とした医療・介護の経営基盤を整えることで、質の高い医療と介護の継続的な提供を可能とし、幸福な国民生活へつなげると確信している。」等の挨拶があった。

次に、東京都医師会の尾崎治夫 会長の挨拶、来賓（鈴木俊一 自民党総務会長、石田祝稔 公明党政務調査会長）等による挨拶の後、日本医師会の今村 聡 副会長より趣旨説明があった。

続いて、日本歯科医師会の堀 憲郎 会長、日本薬剤師会の山本信夫 会長、及び日本看護協会の秋山智弥 副会長による決意表明に引き続いて、日本医療法人協会の加納繁照 会長が決議文を読み上げ決議文が採択され、日本医師会の中川俊男 副会長の頑張ろうコールに合わせて氣勢を上げて、会は終了した。

県民の健康と医療を考える会総会

本県では令和元年11月12日（火）の19時から県医師会館において「県民の健康と医療を考える会」総会を開催した。趣旨は17団体で構成する県民の健康と医療を考える会により、上記「国民医療を守るための総決起大会」における決議と同様に、わが国が健康寿命世界一の長寿社会となり、今後更なる健康寿命の延伸も考えられる中、高齢者から若者まで、すべての人が元気に活躍し続けられ、安心して生活できる社会保障制度の確保を願うことを目的としたものである。会の代表である本会の河村会長の挨拶に続いて今村による趣旨説明の後、下記の決議文及び請願について採択・承認し閉会した。

決 議

人生100年時代を迎えるなか、幸福な国民生活を将来にわたりおくるためには、必要な医療・介護を安心して受けられるようにしなければならない。

よって、持続可能な社会保障制度の確立に向けて、適切な財源を確保するよう、本会の総意として、強く要望する。

以上決議する。

令和元年11月12日

県民の健康と医療を考える会

県民の健康と医療を考える会構成団体

山口県医師会	山口県歯科医師会
山口県薬剤師会	山口県看護協会
山口県栄養士会	山口県作業療法士会
山口県歯科衛生士会	山口県歯科技工士会
山口県鍼灸師会	山口県病院協会
山口県放射線技師会	山口県理学療法士会
山口県臨床検査技師会	山口県老人クラブ連合会
山口県助産師会	山口県女性団体連絡協議会
山口県臨床工学技士会	